

府中市生涯学習審議会（平成24年度第4回） 会議録

1 日 時 平成24年7月30日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市生涯学習センター 1階会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員12名

小林 繁、小林 清次郎、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、鈴木 映子、
田野倉 晴美、寺谷 弘壬、戸島 忠彦、比留間 一磨、三宅 昭、
山内 啓司

（2）職員4名

町田文化スポーツ部次長
茂木生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹
市ノ川企画係長、大木

4 開 会

- ・会長より挨拶
- ・次長より挨拶

5 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

- ①レジュメ、②第3回生涯学習審議会会議録（案）、
- ③都市社連協 理事会・役員会の資料、④平和啓発事業チラシ
- ⑤【社会教育委員のみ】第54回全国社会教育研究大会山梨大会 開催要項

（2）前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した会議録（案）は、一部修正後、市民に公開すること、
ホームページに掲載することが了承された。

（3）都市社連協 理事会・役員会の報告について

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

■ 拡大役員会、第1回理事会に事務局と出席してきた。拡大役員会で決まった協議
内容の報告があった。

報告1では全国社会教育委員連合会の第24回総会の議事録になっている。第1
～6号議案に決まったことが書かれているので、お目通しいただきたい。

報告2の都市社連協の表彰受賞者の決定について、日出町の委員が受けることになり、全国社会教育研究大会の中で表彰を行う。山梨大会の開催についての報告もあった。

報告3について、都市社連協の役員名簿で、ブロック幹事と会計監査に府中市が入っている。

報告4の役員の輪番制について、会計監査に府中市と青梅市が入っている。その後は30年までは府中市は出てこない。

報告5は都市社連協のブロック幹事の輪番制の表について、第5ブロックは6市あるので、6年に1回は幹事が回ってくる。社連協の理事の一覧表も添付してある。

報告6の都市社連協の役員会等日程表について、予定について書かれているので、ご理解いただきたい。

協議1の平成24年度の都市社連協ブロック研修会について、各ブロックの研修内容が書かれている。統一テーマは「絆ーわたしたちの輝くまちづくり～つなぎあいはにないあい」に沿って、各ブロックが研修会を行う。

第1ブロックは「人づくり まちづくりと理想郷の実現」というテーマで、講演とアトラクションを行う。

第2ブロックは「学校支援の方策について～地域で育む、地域の連携」というテーマで、第1部では講演会、第2部ではグループワークを行う。

第3ブロックは「市民がつくる生涯学習への新たなこころみ」というテーマで、第1部がシンポジウム、第2部が分散会を行う。

第4ブロックは「防災教育と地域とのつながり」というテーマで、事例発表を行う。

第5ブロックのテーマ「市民をつなぎ まちをつむぐ」～世代間交流にみる「学び返し」～の基で行うと報告してきた。内容は府中市が基調講演、伝統文化のお囃子の実演を行い、調布市、小金井市、武蔵野市が事例発表をして、グループディスカッション、懇親会を行う。第1～5ブロックまで報告し了承された。

協議2について、都市社連協交流大会の実施要項について、12月1日（土）稲城市中央文化センターホールで行われる。その中で、ブロック研修会の報告と、慶応大学教授による講演会が行われることが了承された。

協議3の都市社連協の表彰規程について、前回の総会でも出ていて、次の運営改善による改革案にも出てくるが、次年度の総会は表彰規程のとおり行うことが了承された。また次回の総会で決めていくことになっている。

協議4について、総会で出ていた改善案ということで、臨時役員会の中で色々取り決めたことを協議内容として出されてきた。

1. 定期総会・交流大会の実施内容の整理について、提案内容は4月に行われていた定期総会と社会教育委員研修を定期総会と表彰、12月に行われていた交流大会と表彰を交流大会と社会教育委員研修にするとある。役員会の中では提案通りとすることで決定している。これは理事会の中でも承認されたので報告する。

2. 表彰制度の見直しについて、現行の①7年以上の委員は、市によっては委員自体を7年継続できない場合もあるので、廃止することになった。②5年以上の委員に感謝状は継続、③前会長への感謝状は廃止という提案がされていたが、会長だと5年以上やっている方が多いので必要ないのではないかということだった。役員会の協議結果としては①～③は提案通り了承された。④については、都市社連協の規定の趣旨に沿わないということで廃案になった。

3. 理事会のあり方について、提案は理事会を廃止して、ブロックごとに会議を年2回開催するということがあった。協議結果は、理事会は現行どおり開催する。その理由としては、ブロック幹事市の負担が大きくなるということと、全理事が一同に会して協議を行う重要な場であり、理事会を無くすことは、組織としての衰退・解体につながるという趣旨で、今回は理事会のあり方を現行通りとすることになった。

4. 全国社会教育委員連合（社教連）の加入について、この提案は都市社連協の加入が社連協の定款で定める正会員の規定外であることや、分担金等の負担があることから、加入継続について協議を継続するか検討するということがあった。臨時役員会の中で協議した結果として、都市社連協として加入継続とすることになった。社教連の設立当時の規約等を調べて検討した結果、都市社連協は自主的に東京都の代表であるので、社教連に加入している部分での勉強もかなりできるので、加入するということが了承された。

5. 会則の改正について、社会教育委員と同様の職務を行う他の委員を設置する自治体もあり、これに対応するため会則を一部改正するという提案が出された。これは多摩市が社会教育委員会を廃止して、名称を変えた。それを都市社連協の委員として認めるという中で、これから色々検討していかなければならないので、これは次の総会までの継続となった。

(4) 第54回全国社会教育研究大会（山梨大会）について

➡ 10月24日～26日に開催される。参加を希望される方は事務局にご連絡をお願いしたい。

- ▶ 昨年までは市で参加費、旅費等の予算をとっていたが、他市の状況等を検討した結果、今年度より参加者の負担となるのでご了承いただきたい。今回の山梨大会は25000円程度の負担となる。

6 審議事項

(1) 第5ブロック研修会について

- 日程は10月27日(土)午後2時 生涯学習センターにて開催される。テーマは「市民をつなぎ まちをつむぐ」～世代間交流にみる「学び返し」～ということで進めていく。内容について皆様と語りながら進めていきたい。予定として報告してきたので、これに沿いながら当日を迎えられると良いと思う。基調講演の担当は府中市で、「社会教育の在り方について」というテーマで報告してきた。お囃子の実演は、皆様の話しの中でもあった世代間交流の中で何ができるのかというところで、歴史的文化の継承が一番相応しいのではないか。お囃子の実演を見ていただくということも府中市の中でやっていきたいと思っている。基調講演について、どのような方向でお話ししていただければいいのかを諮っていきたい。それと連動していくが、事例発表の担当が調布市、小金井市、武蔵野市が受け持つが、これから3市とは相談をする。グループディスカッションはどのような形で、何をテーマに話しをしていただくか。また、その中に府中市の委員が一人ずつ入ってリーダー的に進めていただいた方がいいのか。最後に地元の担い手として、青年会等の若者を各グループに入れて参加していただくという項目を作ったが、まだ具体的に進めていない。どんな方たちをお願いするかを相談して決めていきたい。
- 「社会教育の在り方」という形を作る時に、お囃子の実演を絡ませて基調講演をしていただくのか。
- 個人の意見としては別でいいと思う。府中は世代間交流の中でこういうものもあるという一例を見せる形で見ていただく。もちろん「社会教育の在り方」の中にも生きてくるのかもしれない。
- 「学び返し」という言葉をその中に含めてやっていただくのかと思っていた。
- こんなことを話していただきたいという部分は、皆さんの意見を取り入れていただきながら、お話ししていただく方が決定すれば良いと思う。お話しいただくのは小林繁委員にお願いしたいのだがいかがか。具体的な話しは事例発表を担当する3市が行うので、その基となる話しをしていただきたい。
- せっかくテーマを掲げたので、それに沿ったお話しをしていただきたい。
- 20分では足りないと思うが、凝縮した形でお願いしたい。

(小林繁委員 了承)

(休憩)

- 基調講演を終えてから、お囃子の実演を見ていただきたいのだがよろしいか。まだどこにも声はかけていない。もしお囃子をお願いするとなると、どこに声をかければ良いのか。
- 囃子連に声をかけて、どこの地域かはお任せする。
- 文化連の中に府中市囃子連合も入っている。
- 子ども、中学生、大人等、いろいろな世代が参加している所を推薦していただくようお願いする。
- 会場はどこになるのか。
- ➡ 研修室は防音になっていないので、講堂の舞台上で実演してもらうのが一番良いと思う。予約している講堂と研修室2は同じ階にあるので移動にも良いと思う。
- お囃子は文化連の囃子連に推薦してもらうのは事務局をお願いする。
- 何分くらいの実演になるか。10分くらいか。
- 時間に合わせてやってくれると思う。
- 船橋流と目黒流があるので、研修会等にはどういふものが相応しいのか聞いた方が良いでしょう。普通のおかめだけではなく、キツネもいた方が良いでしょう。
- 事例発表をしていただく3市に関しては、どういふお願いをするべきか。テーマに沿ってお願いするのか。
- ➡ 去年は学校に焦点を絞ってやっていただいた。何かに焦点を絞るとやりやすいと思う。
- 町が世代間交流や学び返しで活性化したという事例を出していただくようになるが、それを学校等に焦点を絞った方が良いでしょう。
- 世代間交流の昔遊びということで学校との関わりなど。
- どこも同じことをしていると思う。同じものが出てきてしまう。
- 昔遊びでも近代遊びでも良いが、お年寄りと関わりのある世代間交流の事例が良い。
- 府中にとって文化的な部分でお祭り、太鼓等色々なところで世代間交流が育ってきている。そういうものを各市が自分の場所を出してきていただけなのか。
- 先日、市役所をお願いして八幡の町会で消防訓練をした。消防署から起震車もきてもらったが、参加者が100人位だった。川の近くの是政でも消防訓練をしたとのことで、聞いてみると参加者は350人だった。どうしてそんな差が出たのか。是政は現実的に川が決壊する恐れがあるが、八幡はその心配はない。そういうことから関心がないように思った。尺度は違うが「何で」ということを頭において作らないと全く興味のないも

のになってしまう。何かで繋がりを持たなければならない。何かひっかかるようなものにしたい。

- キーワードをあまりにも限定的にしてしまうと、各市でも事例を探す場合に困ると思う。また、市によって同じような事例が出てくる可能性もあると思う。各市の発表内容は事前に話しがあるのか。
- 事前に話しはするが、内容を出す前に、各市からどのような内容にするか問合せもあると思う。具体的にテーマは分かれていくので、これで理解できるかと思う。
- 世代間交流は子どもと高齢者だけではなく、子どもと青年も当てはまる。文化的なものだけではなく、ボランティア活動やスポーツ活動等、分野をゆるめた内容が良いと思う。
- その町ならではのものがあるはず。
- ここに書かれている青年会は府中にもあるのか。
- ➡ 青年会はほとんどが旧町名の地区単位で組織していて、青年会連合会もある。青年だけでなく、年齢が高い人も入っているところもある。
- 近隣市にもあるのか。
- ➡ 調布市にはあるかもしれない。
- 青年会も高齢化しているのか。
- むしろその方が引きずっているのが良い。青年会は漁村などに活発にあるが、府中市にあるとは知らなかった。
- ➡ お囃子も青年会が中心となって活動している。
- お祭りを中心にして活動しているが、60歳を過ぎても青年会に参加している。とても良いことだと思う。
- 事例発表に関してはテーマを限定せず、その市ならではのものを出してもらうように伝える。事務局と相談しながらブロック会議に持っていく。

グループディスカッションは発表を含めて60分ということだが、その中で地域の担い手として青年会等の若者をグループに入れて参加していただく形で出してきた。どこにお願いして、どういうふうに参加してもらったらいいか諮りたい。
- 商工会議所にはそういう青年会がある。その中からボランティア等で来てもらったことがある。
- 商工会議所は連合会があり、40歳までと決まっている。府中にあるお祭りの青年会とは少し違う。
- 事務局に聞きたいのだが、若い人が生涯学習センターの中で活動している組織のようなものはあるのか。
- ➡ 体育関係の団体の年齢層は低い。文化関係の団体でも音楽等は若いと思う。

- 事例発表とグループディスカッションは別なのか。事例発表を受けてディスカッションをするのかと思っていた。
- はい。別です。イメージしているのは、事例発表を3市にさせていただいた後、質疑応答の時間はあるかもしれません。
- グループディスカッションの中でまた事例発表のようなものがあるのか。
- 事例発表をした後、参加している委員をグループ分けし、当日の基調講演や事例発表の中での話し合いをグループ内で話し合えれば良いと思う。
- 発表を含めて60分と書いてあったので…。
- それはグループディスカッションをした後で、各グループが話し合った内容を発表（報告）するという意味。全体を通すと2時間以上かかるかもしれない。
- グループディスカッションの司会進行（コーディネーター）はかなり大変だと思う。事例発表した方がグループに入ってもらいと比較的やりやすいと思う。
- もちろん事例発表した方にもグループに入ってもらいたく。グループディスカッションするにあたり、進行する人が必要だと思う。今までのディスカッションには各市の情報交換的な部分も含まれてくるので、その中で3市以外の情報交換ができるという利点もある。
- どのようなグループを想定しているか。
- 当日の参加者数によるが、1グループ8名位が6グループ位だったと思う。
- グループ分けはその場で行うのか。
- 事前にする。申込みがあるので各市を分ける。
- 基調講演を講堂でやってから、ディスカッションは別の部屋でやらないと平面の部屋ではできない。
- ➡ 研修室を予約している。休憩を入れるタイミングで部屋を移動してもらおう。
- 最後のまとめの話は必要か。
- 3市がオーガナイズしていると良いと思う。最後にゲートキーパーで話す人がいると思うが、3市が絡んでいとまとめやすいし、ディスカッションして良かったという雰囲気になると思う。ほとんど想定しながら3市を組み合わせた方がいいと思う。
- ディスカッションの時に司会進行は誰が行うのか。
- 府中市の委員が務める。
- 去年は各市の会長さんがコーディネーターをして、他に記録を取る人、発表をする人をグループごとに決めたような気がする。
- それが決まるまでは府中市が世話役になって、他市の方に進めていただくのも一つかもしれない。ただグループになったときに、誰かが第一声をしなければ何事も決まっていけないので、それを府中市がする必要はある。

- 事例発表は事例発表で閉じて、その後のディスカッションは事例発表に関わりのないテーマですか。事例発表を受けてするか。また、ディスカッションをした後は講堂に戻り発表をするのか。その文章の書き方について、国立市のはっきりした書きの方が分かりやすいと思った。府中市の方は発表を含め60分が理解しにくい、文章の意味が繋がっていかないので分かりにくい。
- 次回のブロック会議に出す時は分かりやすいように校正する。
- ディスカッションは課題別に分けて申込み制にするのか。
- それも相談したい。どういう形に持っていったら良いか。
- 地元の担い手として青年会等の若者を各グループに入れるのは必須か。
- 予定として話しはしてきた。ただ、担い手と書くかどうかは別として、若い人にも事例発表や基調講演を聞いていただいた後に、その方たちの意見を聞けたらと思う。この前の審議会の中で出た意見だと思う。
- 最初から入れていくのなら、基調講演と事例発表とディスカッションは連なりが合った方が良い。でないと基調講演や事例発表は何のためか分からなくなってしまう。
- 若い人たちは代表
- 難しいと思う。例えばスポーツやお囃子をしている人は反発しないかもしれないが、地域の大学生だった場合に、何の意味がやるのかと反発があるかもしれない。そういうことも想定した方が良い。
- 私は府中市内の青年たちをイメージした。
- 府中の大学生で府中の青年会に入っている人はまずいない。組織する側がある程度演出しないと上手くいかない。最後のまとめがしにくくなると思う。
- 今までにない試みとして、若い人たちの意見が聞ける場があると良いと思った。青年会等なので若い人たちのグループと考えて良いと思うが、どこにお願いしたら良いか。
- 例えば、スポーツの好きな青年、お祭りの好きな青年、仕事の青年会議所から呼ぶのか、それによって違ってくると思う。お祭りはまさに学び返なので、すぐに終わってしまうと思う。
- 各グループに1人ずつ入れるなら、8グループ作ったとして最低8人は必要になる、趣旨を理解していただいて参加してほしい。
- 視聴覚全国大会に、青年会議所の人たちと一体になって事例発表をしたときに、青年会議所の人が一生涯懸命応援してくれた。青年会議所の若い人たちは毎年やっていて弁が立つ人が多い。
- 事務局はどういうイメージか。
- ➡ 前回の会議に出席したとき、青年層に入っていて話聞いてると良い、という話しになった流れとして、お囃子の話しが出た。まさに文化の伝承のために活動が行われ

ているので、実演をやってもらった後に、そのままディスカッションにも参加してもらえないかという話だったかと思う。確かに青年会議所や青年会、スポーツ等の若い人に、このためだけに集まってもらうのは可能だと思うが、何かしらコーディネートをしないと、どうにもならないという感じがした。

青年会連合会は社会教育の立場で組織した経緯がある。地域によって年齢層も違うし、目的もお祭り以外にも府中市全体の活性化という意識を持った青年もいる。そういう希望を伝えれば用意してもらえらると思う。

- うまく世代間で活動しているように見えて、苦勞している部分もあると思う。色々な話しを引っ張りだせば良いと思う。若い人はどういうふうに限定すればいいか難しい。
- 各支部の代表としてきてもらえれば良いと思った。
- そのような形で、若者の参加について話しを進めて良いか。

(一同了承)

- ディスカッションのコーディネーターは府中市が担当した方が良いと思う。
- 全体の司会進行等も含め、社会教育委員8人に優先して手伝いをお願いし、足りなければ審議会委員からもご協力いただくということで良いか。

(一同了承)

- 最後のまとめは基調講演をしていただく小林繁委員にお願いして良いか。

(一同了承)

- 時間配分については、第5ブロック理事会で相談する予定なので、開始時間等も含めて変更するかもしれない。
- ➡ 今日までに決まったことを会長、副会長と改めて整理し、第5ブロック理事会に持っていく。その後、変更したことや参加人数なども含め皆さんにお知らせする。

7 その他

次回審議会について（8月は休会）

9月24日（月）午後2時 生涯学習センター 1階会議室